

広島県教育委員会会議録

令和 6 年 4 月 1 2 日

広島県教育委員会

広島県教育委員会会議出席者名簿

令和6年4月12日（金） 13：00開会

13：41閉会

1 出席者

教 育 長	篠 田	智 志
委 員	細 川	喜 一 郎
	中 村	一 朗
	志 々 田	ま な み
	近 藤	い ず み
	菅 田	雅 夫

2 出席職員

教 育 次 長	池 田 克 輝
管 理 部 長	江 原 透
学びの变革推進部長（兼）教育センター所長	阿 部 由 貴 子
乳幼児教育・生涯学習担当部長（兼）参与	重 森 栄 理
理 事	榊 原 恒 雄
総 務 課 長	糸 崎 誠 二
秘 書 広 報 室 長	竹 森 潤 一
教 職 員 課 人 事 管 理 監	大 庭 潤 也
全国高等学校総合体育大会推進室長	平 田 篤

教育委員会会議定例会日程

日程第 1	会議録署名者について	1
日程第 2	報告・協議 1 令和 7 年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験について	1
日程第 3	報告・協議 2 令和 7 年度全国高等学校総合体育大会広島県実行委員会第 2 回総会について	3

篠田教育長： それでは、ただいまから本日の会議を開きます。

直ちに日程に入ります。

まず、会議録署名者の件ですが、本件は会議規則第20条の規定によりまして、私から御指名申し上げます。

会議録署名者として、中村委員、そして志々田委員を御指名申し上げますので、御承諾をお願いいたします。

本日の会議議題は、お手元のとおりでございます。

議題のうち、公開になじまないものがあれば、最後に回して審議したいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、本日の議題は全て公開で審議することといたします。

報告・協議 1 令和7年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験について

篠田教育長： それでは、報告・協議1、令和7年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験について、大庭教職員課人事管理監から説明をお願いいたします。

大庭教職員課人事管理監： 報告・協議1により、令和7年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験の実施について説明をいたします。

資料1ページの1、募集校種・職種・教科等を御覧ください。(1)には、選考を行う校種・職種・教科及び採用見込み人員を示しております。広島県の合計は755人、広島市の合計は234人、全体で989人となり、昨年度より49人の増でございます。(2)には、今年度より新設しました一般選考、大学3年生等チャレンジ受験の募集校種・職種・教科等を示しております。

続きまして、資料2ページ、2の日程・概要を御覧ください。(1)から(3)までの流れで選考試験を実施します。(1)、(2)ともに試験の実施時期及び試験項目については、昨年度と変更はございません。

続きまして、資料3ページ、3、主な変更点を御覧ください。今年度は主に2点変更し、実施いたします。1点目は、大学3年生等チャレンジ受験でございます。受験機会を増やすことで、教職に対する意識を高め、受験者の確保につなげたいと考えております。2点目は、社会人を対象とした特別選考に高等学校の農業を追加いたします。採用必要数を充足できてない現状を改善するとともに、専門性の高い人材を獲得したいと考えております。

説明は以上でございます。

篠田教育長： ただいまの説明に対しまして、御質問又は御意見がありましたらお願いいたします。

志々田委員： 大学3年生等チャレンジという、この等には何が入ってるんでしょうか。

大庭教職員課人事管理監： 等ということですが、短期大学、大学及び大学院の最終年次の1年前の年次に在籍している者を対象とするということで、令和7年度中に卒業をする見込みであることと、受験する校種・職種・教科に相当する普通免許状を令和8年3月31日までに取得を確実にする見込みであることを対象としております。

志々田委員： 短期大学の場合でいくと、1年生が受験をするということになるわけですね。

大庭教職員課人事管理監： はい。

志々田委員： 今、成人は18ですから、職業を決めていく上では別に不足はないと思いますが、若いので、きちんと説明をし、誤解のないように理解していただいて、たくさん受けていただければなと思っています。

もう一点は、各大学の御反応です。教職を持っておられる大学の先生方にも御説明に上がってると思うんですけども、大学3年生等チャレンジ受験について、広島県内の教職課程を持っておられる大学の先生方はどんなことを言っているんでしょうか。

大庭教職員課人事管理監： まず、1点目の短期大学等のところにつきましてですが、負担等というところも心配されるんですが、そういったところは大学に訪問した際に、過剰な焦燥感や誤解が生じないように、受けなければ不利になることではないということを丁寧に周知しているところでございます。引き続き、そういったところも周知をしていこうと思っております。

大学3年生等チャレンジ受験に関わっては、様々な大学の先生等の御意見も伺って、参考にさせていただいたんですけども、やはり我々のほうからは機会を増やすといったところで、今民間企業へ早い段階から就職を決めているとか、あるいは教職を目指して

いるが迷っている学生さんがいるので、早い段階からそういった機会を与えていただくことで、ある大学の先生はそういったところに教職を目指して、心に火をつけることができた等聞いていますので、そういったところのよさもアピールしながら、これからも3年生等受験について、しっかりアピールをしていければと思っています。

近藤委員： 社会人を対象とした特別選考に農業が入ってくるという点に関して2点お聞きしたいんですけども、一つ目が、これまで農業科の先生はどの大学の学部にも所属されており、こういったところから来てくれたのかと、今後この新しい制度ができて、どこに広報していき、試験を受けてもらうか。その辺りはこういったことを想定されてるのか教えてください。

大庭教職員課人事管理監： まず、高校の農業の教員ですが、大体農学部であるとか、そういったところが主にはなってくると思っています。今、全国状況としては、農業では免許の授与数自体が減少傾向になっており、一方で、農学系の学生については就職率が90%を超えるというようなところもありまして、なかなか教師、教職を志望する方がおられないというところで、志願、志望を増加させるというところは難しい状況にあります。

そういったところを踏まえながら、今知事部局の農林課等と連携をしながら、是非農業の先生になっていただだけませんか等、アピールを今しているところでございます。

近藤委員： 分かりました。ありがとうございます。

菅田委員： 大学3年生等のチャレンジ受験の対象校種、教科のところで、募集人員が僅かなものは対象としないとあるように、漠然とした表現になっていますが、これは何か理由があるんですか。それとも、2人や3人等、具体的な数字は想定されてるんでしょうか。

大庭教職員課人事管理監： 来年度採用が見込めないところも考えられますので、そういったことが明らかになっているものに対しては、本年度3年生等受験をしても、受験者に迷惑がかかってしまうので、そういった書き方をさせてもらっています。

具体を言えば、本年度実施しないのが高等学校の情報、高等学校の工業の建築、高等学校の看護と、特別支援学校の高等部の工業の建築と理療、栄養教諭というところで、採用が若干名であるとか、来年度の見込みについて見通しが立たない等、そういったところに関してはそういったような方向で書かせていただいております。

中村委員： ちょっと細かい点なんですけど、この1ページ目の資料の小学校、小学部、大学3年生等チャレンジ受験のところも同じなんですけど、横棒になっているのは、チャレンジ受験も全校種、全教科対象ということですが、小学校は特に教科がないからという書き方ですか。対象になっていないかのようにも見えそうなので、何か工夫があったほうが、見る人には良いと思いました。

大庭教職員課人事管理監： おっしゃられるとおり、棒が書いてあるのではないというわけではなくて、教科の科目、分野がないというところで線を引かせていただいたんですが、対象試験自体がないと誤解を生んではいけないので、来年度以降は工夫していきたいと思っています。

中村委員： はい、お願いします。

細川委員： 御説明ありがとうございました。

今回は大学3年次等の候補者選考試験について御説明をいただいたんですが、先生になっていただきたい、なりたいという方を増やすために、1年次、2年次の生徒の方々に対するアプローチはどんなものがあるんでしょうか。

大庭教職員課人事管理監： 以前は教師塾というのを開催していましたが、残念ながらコロナのこともあって、学校現場に行けない状況となりました。教師塾については限られた人数の方々を対象としていました。現在は、11月から出前講義をはじめ大学の授業の一環等として多くの学生に受講していただいています。出前講義では教師の魅力であったり、授業づくりについて、教師の一日の生活などの話をしたり、実際に授業の様子をビデオで見ていただいたりしています。あるいは、日常の教師の業務である健康観察や掲示の意味を考えてもらったりしています。これらのことを通して教師の仕事ってこんなにすてきなんだよというところを1、2年生のときからしっかりアピールをするような講義もしています。

昨年度、11月では約1,300名の学生が受講していただいております。

細川委員： ありがとうございます。教師塾についてはそういうことになっているので、やはり大学に入って勉強を始めて、教員を目指そうとしている方にしっかり採用試験に向けて頑張ってもらえるような働きかけを今後もお願いをしたいと思います。

それから、3ページの図のところに、大学3年次等で合格をして、矢印がずっと伸びて、第2次選考試験と書いてありますが、この3年次で合格をされた方が4年次の二次試験を受けるまでの間に、働きかけとかいうようなものは何かありますか。

大庭教職員課人事管理監： 3年次に合格した方に関しては、4年次に再度出願をしていただいて、同じように二次試験から試験を受けていただくことになります。なので、そういったところで出願をお願いしますということは、こちらから働きかけていくことになると思います。

細川委員： 3年次で1次を合格されたので、2次を受けてくださるだろうということを期待しているんですが、民間企業のほうに流れたり、合格してるのに、まあこっちがいいやとかと、教員を目指されなくなるおそれがもしあるとしたら、その間はしっかり手厚く県教育委員会で何か取り組んでいただいて、二次試験までしっかり受けていただくように働きかけをしていただけたらなと思いますが、その辺のところはいかがでございますか。

大庭教職員課人事管理監： 今御意見をいただきましたので、どういったことができるかというところも含めて、再度検討をしていければと思っております。

細川委員： はい、よろしくお願いします。

篠田教育長： ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

各委員から御意見いただきましたけども、今回の採用試験で正しく大学側への広報を3年生だけではなくて、1年生からどういう働きかけをするかというようなアプローチ、それから、正しく広報すること、今回のチャレンジ試験について、正しく情報が伝わって、先ほどのバーのこともありましたけども、加えて合格後のケアもそうですし、しっかり次、受験していただけるように御案内をする必要があると思いますので、その点も引き続き検討して、より多くの方に正しく知っていただいて、より多くの方に受けていただけるようにしていただければと思います。

それでは、以上で本件の審議を終わります。

報告・協議2 令和7年度全国高等学校総合体育大会広島県実行委員会第2回総会について

篠田教育長： 続きまして、報告・協議2、令和7年度全国高等学校総合体育大会広島県実行委員会第2回総会について、平田全国高等学校総合体育大会推進室長から説明をお願いいたします。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： 当室からは、報告・協議2によりまして、令和7年度全国高等学校総合体育大会広島県実行委員会第2回の実施について御報告いたします。

1ページ、2を御覧ください。昨年8月に設立しましたこの実行委員会の第2回総会を先月3月22日に実施し、委員43名中、代理出席を含めた38名に御参加をいただいております。別紙として、実行委員会の名簿をつけさせていただいております。後ほど御参照ください。

(3)にありますとおり、事務局より、競技会場・競技日程などの議案をお示しし、いずれも原案のとおり可決いただきました。

次に、3を御覧ください。会則の定めのとおり、本大会を高校生による高校生のための大会とするため、前回総会に引き続き、議事進行や司会を高校生が行っております。加えまして、高校生自身が自分たちの言葉で高校生活動推進委員会、広報専門部会及び式典・演技専門部会の活動報告を行いました。

なお、そのほか四つの専門部会の活動についても、県高等学校体育連盟会長など、大人のメンバーである各部会長から御報告をいただいております。

ページ一番下にあります枠囲みを御覧ください。高校生活動の全体報告を行ってくれた生徒は、活動報告とともに、普通の高校生活では体験できない様々な経験が私たちを大きく成長させてくれたと、あとは自分たちの成長の実感などを語ってくれました。

続きまして、2ページ目にお進みいただき、御覧ください。同じく枠囲みの中に記載した活動報告の概要を順に御覧ください。広報専門部会の部会長を務めている生徒は、観客席を10万人で埋め尽くすことを具体的な広報目標に掲げたといったような大きな目標を定めたことや、SNSを利用した広報活動方針などについて、報告をしてくれました。

式典・演技専門部会の部会長を務めている生徒は、総合開会式での広島らしさや、高校生らしさの意味をよく考え、自分たちの活動の中で生かすことができるようにしながら企画を進めてきたことや、会場の装飾や、総合開会式などで放映する映像制作のほか、式典でのアナウンスや手話通訳も高校生自身が行っていくこととしたことなどを報告をしてくれました。

4には、総会に出席した高校生活動推進委員たちが、同じく出席いただいた湯崎知事

や教育長と記念撮影を行った様子や、先ほどお話をしました高校生たちによる活動報告の様子を写真で掲載をしております。

最後に、5を御覧ください。今後も引き続き、各専門部会において大会に向けた具体的な事業計画を進めて参ります。あわせまして、高校生活動推進委員会についても、総合開会式の演目・演出を決定していくとともに、各種イベントやSNSなどを通じ、大会の広報活動などに取り組んで参ります。

次回、第3回の実行委員会総会につきましては、令和6年8月頃に開催予定としております。

当室からの報告は以上でございます。今後も引き続き、本大会の広島県基本構想であります「高校生による高校生のための、安全・安心で、一生心に残る大会」が実現できるよう、関係者が総力を挙げて大会準備を進めて参りたいと思っております。以上です。

篠田教育長： ただいまの説明に対しまして、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

近藤委員： 高校生が四つのSNSを立ち上げているんですけども、Youtubeを拝見しまして、面白いものが上がってるなと思いました。RCCのスタジオを借りて、本番と練習と2パターンつくって、確かに見るだけでうまくなっており、多分、間でアドバイスがあったり、自分たちで振り返ったりしてやってるんだろうなという、それだけ見ても成長が見れてすごく面白かったです。

参加してる生徒さん、すごくやりがいを感じてるんだと思うのですが、今まだそこまで関心がない高校生たちに広がっていけばいいと思うのですが、高校生活動推進委員は今年度もまた新しい1年生等を募集する予定があるのかと、今から運動部じゃない高校生にどうやって広がっていくのか教えてください。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： 昨年度までRCCの業務委託で、デジタル技術の向上という形で、研修を進めて参りました。それを今年度につきましては発信する期間ということで、今のSNS等を通じて、情報発信をどんどん積極的に進めていく予定にしております。

現在は出演している生徒が、今のこの48名の高校生活動推進委員のメンバーで今映像を撮っているんですが、今後の予定は各校に、生徒会執行部、生徒会の生徒たちとネットワークを組んでお願いしたりとか、あと大会に参加している競技者に出演していただいて、それを上げることによっていろいろな多くの方々に応援していただけるというような体制を考えているところでございます。

近藤委員： ありがとうございます。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： もう1点、1年生を忘れておりました。失礼いたしました。1年生につきましては、昨年度のところで高校生活動のメンバーたちと中で協議した上で、やはり連絡するにも今の数で連絡手段がGoogle Classroomを使っていたということで、なかなか思うように連絡が回せないという課題もございまして、これ以上増やしても、なかなか運営する上で難しいだろうということで、先ほども申しましたように、要はいろいろ生徒会を広げていくことによって、新入生、1年生も巻き込んだ上で活動していく形を生徒は考えておまして、新たに推進委員を募集するということは、現時点では想定しておりません。

菅田委員： 実行委員会に出席対象の高校生9名いらっしゃるんですけども、これがどういうふうにして決まったのかということと、それから、県北とか県の東部から1人もいないんですけども、なぜなのでしょう。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： ここに出席している9名というのは、会長、推進委員会の会長、副会長と、あと各専門部会、6専門部会ありますが、その部会長、広報、式典の部会長と、あと四つが大人の専門部会になるんですが、そこにも参加している生徒が4名、以上の9名がこの総会に参加メンバーということになっておりまして、地域性で選んでいるわけではありません。

ただ、今年度そのメンバーの改選により、1名東部の生徒が入りまして、現在新たに今年度、4月28日に高校生活動推進委員会がありまして、そこで交代という形になると思います。

菅田委員： はい、分かりました。

細川委員： 御説明ありがとうございました。

いよいよ次年度ということで、私もわくわくしているのですが、1ページの囲みの中で、高校生活動の中で、普通の高校生活では体験できない様々な経験が、私たちを大きく成長させてくれましたという感想を述べてくれているんですけども、高校生がこういう活動を通して具体的にどういうふう、私たち成長しましたよというようなことを言っているのか教えてください。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： この高校生の活動というのは、基本的に高校生が責任と権限を持って主体的に活動をしていることでありまして、やはりそういったところが通常の学校の総合的な探究の授業もあるんですが、そこが生かされた形で開催し、進めていく中で、例えば広報活動であったり、式典の演技の活動を考えていくわけなんですけど、要は答えのないものが多い中で、学校では味わえない、ちょっと違った形で活動しているのがこの活動になるだろうと思っております。

細川委員： そういう中で、2ページの二つ目の囲みの中に、総合開会式での広島らしさとか、高校生らしさというところで、どのような高校生らしさを出してくれるのか期待しますし、また、広島らしさというのは、例えば高校生はどういうふうに捉えているのか、教えていただければと思います。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： まず、この高校生活動が立ち上がりまして、この広島とはというところで、いろいろな意見を出し合いました。例えば食べ物であるとか、スポーツの特色であるとか、そういったところを含めて、広島県のよさであるとか、そういったところを含めて、この総合開会式、あるいは広報でしっかりとアピールしていけたらなというところでスタートしておりまして、そこを基に今後の広報活動、あるいは式典の内容というところで反映させていければなど、生徒は考えたところでございます。

細川委員： 例えば広島らしさというと、やはり私はすぐ平和を思うんですけども、そうすると、例えばサッカーの決勝戦はピースウイングでやられるのかなとか、期待するんですけども、広島らしさを前面にどんどん出していただいて企画運営していただくことが、高校生にとってもいい経験になりましょし、いい大会になると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： 今サッカー競技の話がありましたが、サッカーは固定開催ということでして、男子が福島、女子が北海道というところで、令和7年度は決定済みになっております。

細川委員： 失礼いたしました。

中村委員： 御説明をお聞きしてて、正に高校生らしい発想で、広報も具体的に活動されてすばらしいなと思いました。

六つある専門部会のうち、高校生が部会長を務めるのがこの広報と式典・演技ということなんですけど、高校生が活躍できそうなものを二つ選んだということだと思うんですけど、実際狙いどおりになってるのか、大人もいる中で、高校生が部会長ということでその辺りが狙いどおり、逆に言うと、ほかの四つは高校生では難しかったことになってるかっていうようなところを教えてください。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： 6専門部会のうち、広報、それから式典・演技につきましては、高校生らしさというものを前面に出せる部会かなと思っております。ここに共同代表の大藤会長が入る形になっております。あと四つの専門部会につきましては、この大会の安心・安全といったところを考えた上で、ここはしっかりと知事のほうにお願いしようということで、4専門部会については大人中心の会としております。

ただ、この体制をつくる上で、その場面も高校生に入ってもらって、しっかりと学んで帰っていただいて、全体の会に還元していただければ、すごく勉強になるのではないかなというところで、この6専門部会のうち2専門部会の高校生と4専門部会の大人の会という形で組織しております。

中村委員： 48名の高校生は、その六つの専門部会にちらばって、それぞれ所属してるってことですか。

平田全国高等学校総合体育大会推進室長： 基本的に、高校生につきましては広報専門部会と式典専門部会を半分に分けた形で所属しております。4専門部会につきましては、その中の48人の代表の中の4名が出席しているというところで、各専門部会1人ずつそこには配置されておまして、そこについての報告事項を全体の会である高校生活動推進委員会の場で報告するという形になっております。

中村委員： 分かりました。

志々田委員： 御本人たちもやる気の火がますますつき始めてるのかなと思いました。

参加をしていくというのが、ただその場所にいるとか、そのメンバーとして一員に入っているだけではなくて、最終的には、自分たちのやりたいことのために大人を巻き込んでいこうというようなゴールの地点がきつとあると思っていて、高校生らしさもとても大事なんだろうと思いますけど、それを言い始めると高校生らしくないなと、高校生自身が高校生らしいんですよって言った時点で高校生らしくないなと、彼らのもつ

と自由な発想や、彼らがやりたいと思ってることを大人にきちんと説明をし、そして大人がいいねと言って巻き込まれて、彼らと一緒に参加の形ができてくるといいなと思っています。

是非、大人の言うことを聞かないぐらいですね、自由闊達な彼らの活躍が見てみたいなど、今回も改めて思いました。是非支えてあげていただければなと思っています。

篠田教育長： ほかに御質問、御意見ございませんでしょうか。

各委員から様々御意見いただきましたけども、来年の夏の大会に向けて、高校生自身がつくっていくというところだと思います。各委員からも御意見ありましたけども、今携わってる高校生以外にどう巻き込んで、広げていくかとか、あるいはつなげていくかとか、大人を巻き込んだつながりの中で、最終的な大会に向けてゴールをどうつくっていくかというところがこれから大事になると思いますので、全体の中でどう場面、場面で、高校生に何をつくって、それがどうつながっていくといったところを我々からもサポートできるようにできればと思いますので、よい大会になるように、是非高校生と一緒に作り上げていくことができればと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

以上で本件の審議を終わります。

それでは、以上で本日の会議の全ての日程を終了いたします。ありがとうございました。